



人生相談『寂静院』200回 多くの悩みに寄り添う

尼僧
齋藤 寂静^{じやくじょう}さん
(71・嵐山町)



嵐山町で結婚相談所を営む傍ら、尼僧として様々な悩み相談を受けている。2003年にスタートした埼北よみうりの人生相談コーナー「寂静院」(第4金曜発行号の7面に掲載)で回答者を担当、今号で200回目を迎えた。

看護師時代の体験

千年以上続く東京都のお寺に生まれる。幼い頃から医療関係の仕事に興味を持ち、将来は助産師か救急救命士になりたいと思っていたそうだ。看護の勉強をしていた大学時代に結婚し一度は家庭に入ったが、しばらくして復学し看護師となった。

看護師として救急救命

の現場などで働いていたそうだが、尊い命が終わる瞬間に立ち会うなかで、「人は生きていて」とが奇跡、だから今を大切にし、本気に生きなければならぬ」と強く思うようになった。「がんで亡くなった高校生の男の子の言葉が今でも忘れられません。彼は死を悟っていたのですが、本当は死にたくない、生きていきたい、と言って亡くなっていたいきました。あの時の経験が私の原点で、あれがあったからこそ、自分に対しても他人に対しても常に本気になれるんだと思います」と語る。

嵐山で仲人業

看護師に区切りをつけ、嵐山町に越してきた

のが45年前。「近隣のホテルや式場でブライダル関係の仕事に就いていました。ブライダルコーディネーターの資格も取得し、結婚式の司会などもしていたんですよ」と振り返る。しばらくして仲人業にも携わるようになり、多くの縁組みを行うなかで評判が口コミなどで広がり、1999(平成11)年に自宅を事務所^(M)に結婚相談所「齋藤企画」を立ち上げた。その後、実家のお寺と同じ真言宗智山派の智積院総本山(京都府)での修行を経て尼僧になり、事務所内に「寂静院」を併設、多くの相談者を受け入れるようになった。

社会への恩返し

看護師、ブライダルコーディネーター、仲人、尼僧と、これまでの人生で培ってきた経験や知識をもとに相談に回答しているというが、大事なことは話をじっくり聞き、同じ時間を共有することだそう。で、「人の心に入ることなんてできない。寄り添うことが一番大切なんです」と話す。相談者のなかにはDVなど切羽詰まった状況で逃げるように駆け込んでくるケースもある。「多くの相談を受けることで」時間も気持ちもお金も使いますが、私はお世話になった社会への恩返しだと思っています」

これからも様々な人の悩みに寄り添っていく。